



「伸びたから切る」の樹木管理から 樹木の役割や機能を最大限に生かす管理へ

樹木管理の現状



本市では、公園の樹木に約1.67億円、街路樹に約1億円の管理費用をかけています(29年度)。それでも限られた業務にならざるを得ない現状です。

伸びすぎた枝を剪定する、苦情に対応して剪定する、例年と同じく剪定する、といった対処療法的、消極的な管理が現状の樹木管理だと感じます。




樹木の役割とは

公園の樹木の役割を問うと、良好な都市景観の形成、心身を癒すヒーリング効果、自然との触れ合いの場、生物多様性の確保のための育成環境形成、ヒートアイランド現象の緩和、大規模地震火災時の延焼防止と多岐にわたる役割を担っていると、街路樹の役割については、道路交通の安全性や快適性の向上、大気の浄化、騒音の軽減、良好な生活環境の確保、火災時の延焼防止と答えました。

はたしてこれらの役割や機能を最大限発揮させる維持管理となっているのでしょうか。

業務委託契約



街路樹の管理は市内を6地区に分け業務委託し、緊急時などは職員が対応しています。公園の植栽管理について、94カ所の都市公園と12カ所の広場等を20件の業務委託に分け、それ以外の小さな都市公園は職員が直接管理しています。(右上へ) 

どちらも一般競争入札ですが、入札参加条件に市内本店を有していること等の制限があり、条件を満たす業者は現在19業者です。さらに市内業者の発注機会拡大、市内業者育成、市内経済活性化に寄与するため「取りぬけ方式」を採用しています。

一抜け方式とは(取りぬけ方式とも言う)

一抜け方式とは、一連の入札において、先に落札者決定を受けた業者は、それ以外の入札で落札者になれない方式。

具体的な管理提案を比較する入札を

現在の価格だけを比較する入札から「樹木の役割」を発揮させるためには、こう変えた方が良いこんな木を植えてみてはどうか、寿命を延ばすための方法など、市や住民のニーズを捉えて、専門的知識のある業者側からの優れた提案を比較する入札を提言しました。市は、より効果的な管理が出来るかと考えるので研究したいと答えました。

植栽管理ガイドラインの策定を

異常気象や大地震が頻発している今、既存のどの計画にも言及がない植栽の維持管理に関して、植えた当時からの樹木の変化、ニーズの変化を把握し、中長期的な管理のあり方について検討する必要がありますと市ガイドラインの策定を提言しました。市は、研究したいとの答えに留まりました。



台風21号内水浸水被害検証結果

(平成29年10月22日～23日にかけての豪雨)

外部の専門家による検証委員会では、内水浸水被害の原因について、「10月12日からの降雨により既に新河岸川の水位が高い状態で、計画雨量を上回る集中型降雨が継続した。新河岸川から江川への逆流を防ぐため樋門を閉鎖したが、その後も降雨が続き開門までに時間を要した。江川下流部の地域は雨水が集まりやすく抜けにくい地形で、近年宅地化が進み、田畑・森林も減少し周辺の保水機能が低下しているなどの複合的な要因。」との考え方を示しました。

今後の内水対策については、ハード面では、「調整池や排水ポンプ場、護岸かさ上げ整備等を、ソフト面では、情報伝達体制の改善、監視カメラ水位計の整備、タイムライン(行動計画)の精度向上、地域住民のマイタイムラインの作成推進、地域住民と協働した防災学習等の推進などを検討すること。また、下水道計画を精査し、優先順位を検討することが望まれる。」との考え方が示されました。

